

# アクアート人の起源

アクアート人はアトランタ北部の1地方に住む農耕民族だった。コーリプスの襲来によって危険なアトランティスから離れユーラネシアに移住したのは1万9000年ほど前、それ以降アクアートは栄華と屈辱の歴史を歩んできた。

# アクアート帝国誕生



アクアート帝国の国旗

今現在、アクアート人の殆どがアクアリア教徒だが、古エッダ教の発生やドリア人のユーラネシア進出によってアクアート世界が東西に分裂してから私たちの歴史は始まった。

アクアート内戦によってユーラネシア東部を失った西アクアートは高度な文明を忘れることなく依然、超大国として繁栄を極めることになった。紀元前1500年頃にはユーラネシアに住んでいた原住民ユーラネシアンの絶滅を完遂し(**ジェノサイド・コンプリート**)この地をアクアート人国家、**アクアート民主国**として建国することに成功する。

# アスガルド侵攻

アクアートは近隣諸国を統一するとアクアート人の住まない未開の地アスガルドに侵攻、我々の圧倒的な軍事力で制圧する。

アクアートのアスガルド侵攻について、**ハンニバル・レクター**軍帥はこのように語っている。[[1]](#endnote-1)



「アクアート人は自身を最も文明的だと主張しているが、アスガルドの暴虐と破壊は凄まじいものだ。アクアート人は、アクアート人に対して非常に紳士的だが、アース人に対して卑劣だ。老人、子供は使えないので殺し、大人の女性はレイプされ、大人の男性は無賃金の労働力として奴隷にされた。これのどこが文明的なのだろうか。いや、文明的ではない」

当時の文献からも、アクアート諸国植民地以前に、この当時からアクアートの暴虐性は間見えていたと言えるだろう。

その後、アクアート元老院は「北部に住むアース国の民への破壊に対する人道的な対応の要求」を参謀に提出するが、参謀はこれを却下。それに対しアース人の不満は高まっていった。

# アスガルドの独立



アスガルドの地

その後、**ウィングの乱**が発生するとドミノ式各州が独立への動きを見せ、遂に独立を許すことになる。(**アスガルド・レコンキスタ**)

その後、近代化による超文明がユーラネシアやオーリンループに到来すると、コーリプスに変わってヴィンランド=アスガルド、そしてアクアートの2大勢力が拮抗するようになる。

# 開戦前夜

アスガルドはフラーヴ、ウィングランドと**東翼同盟**を締結した[[2]](#endnote-2)。アクアートは第12代皇帝**ウォーターゲート**によってアクアート北部のアームランドや翼州連合と**西翼同盟**を締結。アクアリア教国とエッダ教国は当時犬猿の仲であり、このとき初めて2宗派による同盟が実現した。(ウォーターゲートの奇跡)

# 第一次世界大戦

アスガルドはヴィンランドやニヴルヘイムを同盟に引き入れることに失敗し、アクアートがアームランド・翼州連合と同盟を結べたことに対し、事態を重く見ていた。またアクアートの軛になってしまうことを恐れたアースランド初代王は国力がまだ優っているうちにアクアートを支配することに決定。アクアートが東翼同盟のフラーヴへ侵攻したことでアスガルドへ宣戦布告。**第一次世界大戦**がはじまった。



我が軍も大戦初期は順調だったが、アース人の縦深攻撃によって我が軍は壊滅的な打撃を受け、首都ウォーターゲートを占領され制暦1500年に降伏。**フロータークリア条約**を締結し、我が国は分裂した。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
|  | **フロータークリア条約文(原文)** |

# 我が国の植民地政策

こうして分断されたアクアート諸国の1国が我が国アクリスである。分断国家としての歴史は浅く、国家運営に大きな支障を来たした。アクアート諸国は当時の国力を取り戻すため、アトランティス植民地政策を実行した。(**アトランティス・コンクエスト**)



この政策は大成功し、アクアートはアトランティス西部を支配することになる。特に港町として栄えた**フローターランド**や、アクルスが発展させた**サルサリア**には大都市が建設され、今でも世界有数の都市となっている。

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |
| フローターランドの街並み | サルサリアのリゾート地 |

結果として、アクアート諸国はそれぞれがヴィンランドやコーリプス、カッタウ[[3]](#endnote-3)と等しい国力を持つようになり、再度アクアートが世界を支配することに成功する。(**アクアート再興**)



しかし、**火水戦争**で我が国は大きく国力を落とし、ヴィンランド=アスガルドの1強時代が始まる。

# アクアート植民地帝国の終焉

アクアート植民地の歴史は火水戦争の終焉(**関所条約**)によって幕を閉じた。各民族は独立しその後冷戦が始まるまでその地域は禁足地として立ち入りが禁止される。その地域は文明の及ばぬ**第3地域**としてどこの国の影響下にも及ばない状態になり、後にそこで**共産主義**や**アバンギャルド**、**無政府主義**、**原子主義**などの思想が生まれることになる。



また、その地域には多くの**遊牧民**が存在しておりアクアートの管理の及ばぬ地では戦争も多発することになる。

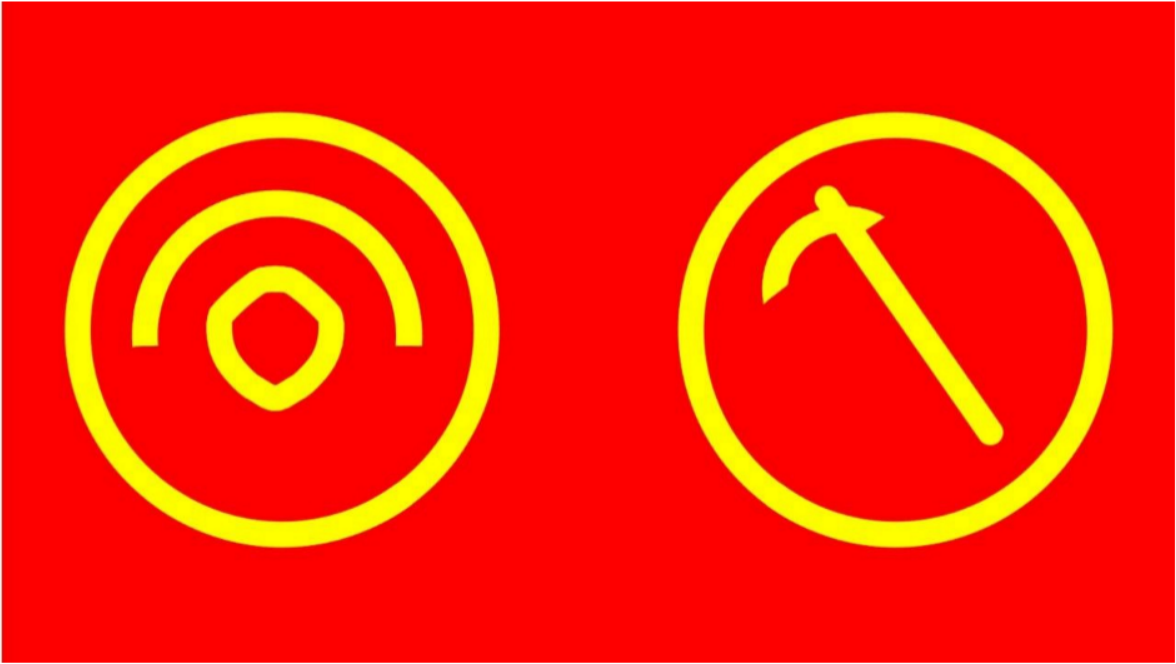
# ヴィンランドの独立とコーリプスの衰退

当時、大漢民国や火付国、アスガルドやアクアート諸国は衰退の一途を辿り、世界トップクラスの軍事力を持っていたコーリプスと独立戦争に勝利した新興国ヴィンランドの二大巨頭によって分断された。(**旧冷戦(東西冷戦)**)

この旧冷戦はそこまで長く続かなかったがこの影響によってコーリプスの開発した核兵器がユーラネシア及びアスガルド、そして第3地域に流出することになる。(**崩壊前夜状態**)

# 新冷戦

旧冷戦は共産主義勢力の出現によって僅か15年で終了した。



共紅旗(旧紅旗)

共産主義勢力は**赤の会**を結成し世界各地を分断した。現在、コーリプスと大漢民国の同盟にアクアート諸国、ヴィンランド、火付国が加わる形で**北部同盟**を建設。この時点で**新冷戦(南北冷戦)**の構図が完成し我々アクリスも北部同盟に加盟している。

# 国際問題

我々がかつて支配していた西アトランティスには大きな**貧困問題**が存在している。巨大な市場、世界人口の2割を有し資源も多いこの地域が繁栄しない原因の多くは未だに存在する**遊牧民勢力**、我が国の行った**奴隷制度**、このふたつが大きな原因として挙げられる。



**黒人の首を採取する白人**

これが世界中への移民(特に**アトランタ**への移民)を産み国際問題となっている。

1. アスガルド戦記より1部抜粋 [↑](#endnote-ref-1)
2. ヴィンランドやニヴルヘイムを同盟に招き大アース同盟を建設する構想もあったが、2カ国は鎖国中立主義(モンロー主義)政策を行っており実現はしなかった [↑](#endnote-ref-2)
3. 当時の大漢民国 [↑](#endnote-ref-3)